

また増加、第二波が来たと、感染者が増加している。その時、GoToトラベルへの懸念、批判が噴出、直前に東京発着は除外と報道、まだまだ混迷と混乱が続く

7月8日のゼミは、個人報告「L.R.Wray:MMT理論」と「MMT(現代貨幣理論)のどこが問題か」を竹内さんの報告で行いました。前者は事前に報告要旨をメールで渡し、読んだうえで質問に答える、という形をとり、主に後者に関する報告と討論を行いました。MMTの主張は、主権通貨を持つ統合国家は財政赤字では破綻しないため、就業保証として財政支出の経済運営をすべし、である。金融緩和のリフレ論ではなく、財政政策重視であり、財政赤字そのものが問題ではない。ユーロは統合国家の通貨でなく主権通貨でない。MMT理論は、民間収支+政府支出+対外収支=ゼロの恒等式が基本。MMT理論の弱点は、財政支出で就業を保障するが、雇用して何をするのか明示されない。生じる弊害はハイパーインフレだけか、インフレ目標で対処可能の判断は妥当だが、検討すべきはバブルの発生・崩壊ではないか、批判する論者もこの点に触れない。

討論では、コロナ禍で、実質的にMMT理論にある財政出動を行っている。ユーロは統合国家の通貨でないから、欠陥商品である。主権通貨とは、統合国家として政府と中央銀行が協調して通貨を造れる。主権通貨の根拠づけで、中国と日本が持つ米回国債はどうか、対アメリカとして相互依存関係にある。国際間の問題として、タックスヘイブンの問題はどうか。

出席は、小野さん、高島さん、松村さん、斎藤さん、大村さん、竹内さん、高田の7名でした。

* 7月22日ゼミは、会場が変更となります。通常の「アイクルの部屋」ではなく、同じビル(日宝道修町ビル)の6階、602号室です。

* 7月22日のゼミは、『資本論』第3巻33章の後半S.546からです。

* 9月9日ゼミは、個人報告「1930年代の世界」をテーマに行います。

* 前々回ゼミで萩原本を終わりました。7月・9月は個人報告の予定、10月からの新しいテキスト候補の推薦をお願いします。

***** ゼミ日程 *****

7月22日(水)午後6時半～9時	淀屋橋・日宝道修町ビル 602号
マルクス『資本論』第3巻33章	信用制度下・・・(後半) 報告大村さん
9月9日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
個人報告: テーマ「1930年代の世界」	報告小野さん
9月23日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
マルクス『資本論』第3巻34章	通貨主義・銀行立法 報告者未定
10月14日(水)午後6時半～9時	淀屋橋道修町・アイクルの部屋
テキスト未定	報告者未定

その後 10/28, 11/11, 11/25, 12/9, 12/23, 1/13, 1/27, 2/10 (アイクルの部屋)

◇第三学科事務局/高田好章: ytakada@kcn.ne.jp 090-8658-3755
HomePage: <http://ysweb.g.dgdg.jp/ytakada/kisoken/> Pass: kiso